

日高市の財務状況把握の結果概要

基本的考え方

- 財政融資資金の貸し手として償還確実性を確認する観点から、平成17年度より、地方公共団体の決算統計を利用して作成する行政キャッシュフロー計算書に基づき、ストック面を重視した4つの財務指標を算出し、財務状況把握を実施。
- 平成21年度実施分より、ヒアリングを実施したすべての地方公共団体に対し、財務状況把握の結果を分かりやすく示す「診断表」を交付し、財務の健全化に向けた貸し手としてのアドバイス(情報提供)を実施。

診断表の概要

平成28年度地方財政状況調査表等を基に行政キャッシュフロー計算書を作成し、財務上の問題点を分析した結果の概要は以下のとおり。

1. 現状

○ 債務償還能力について

実質債務月収倍率が低いことから債務の水準は債務高水準の状況にないものの、行政経常収支率がやや低く、かつ、債務償還可能年数が長いことから償還原資の獲得状況において収支低水準という状況にある。

よって債務償還能力について留意すべきと考えられる。

○ 資金繰り状況について

積立金等月収倍率が高いことから、資金繰り余力の水準は積立低水準の状況にはないものの、行政経常収支率がやや低く、かつ、債務償還可能年数が長いことから経常的な資金繰りの余裕度において収支低水準の状況にある。

よって資金繰り状況について留意すべきと考えられる。

財務指標及び財務上の問題点

区 分	平成28年度	計画最終年度(-)	単独基準	複合基準
債務償還可能年数	18.5年	-		15年
実質債務月収倍率	10.2月	-	24月	18月
積立金等月収倍率	3.1月	-	1月	3月
行政経常収支率	4.6%	-	0%	10%
債務系統	○	-		
積立系統	○	-		
収支系統	×	-		

(平成28年度)

普通会計地方債残高	16,487百万円
うち財政融資資金	9,984百万円

2. 今後の見通し

4指標値(債務償還可能年数、実質債務月収倍率、積立金等月収倍率、行政経常収支率)の見通しを判断することはできないが、ヒアリングにより下記の内容を確認した。

- ・地方債現在高は増加し、積立金等残高は減少する見通しであることから、実質債務は増加する見通しである。
- ・行政経常収入は減少し、行政経常支出は増加する見通しであることから、行政経常収支は減少する見通しである。

3. 総評

貴市の平成28年度の財務状況は、収支系統に問題を生じており、債務償還能力及び資金繰り状況に留意すべき状況となっている。

この要因は、高齢化の進展による繰出金(建設費以外)及び扶助費の増加や、学童保育室、文化体育館等の施設運営に係る管理運営委託により、委託料が増加したこと等によって、行政経常収支が減少したためと考えられる。

貴市の人口は、今後も減少する見通しであり、地方税収入の減少に加え、扶助費、物件費、繰出金(建設費以外)等が、引き続き増加していくと見込まれ、更に高麗川駅東口開設事業等の大規模公共事業や公共施設等の更新等の実施も控えていることから、地方債発行額の増加や積立金等残高の減少が想定され、債務償還能力及び資金繰り状況が悪化することが懸念される。

貴市におかれては、今後見込まれる財政負担を適切に把握する観点からも、行政改革推進等の運営政策、会計年度任用職員制度の対応を含む人事政策、公共施設等に係る個別施設計画等を策定し、それらの内容を踏まえた中長期的な収支計画を策定することにより、健全かつ安定的な財政運営を行っていくことが望まれる。